



橋北中学校だより

令和5年10月2日(月)

第7号 文責:奥田

津市立橋北中学校

令和5年度「全国学力・学習状況調査」、「みえスタディ・チェック」結果報告

4月18日(火)に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」、4月18日(火)及び5月12日(金)に1,2年生を対象に実施された「みえスタディ・チェック」の結果及び分析を報告いたします。

1年	国語	数学	理科	2年	国語	数学	理科	3年	国語	数学	英語
本校	上回る	上回る	上回る	本校	上回る	大きく上回る	大きく上回る	本校	大きく上回る	大きく上回る	大きく上回る
県	66.8	62.2	60.2	県	52.6	51.3	39.7	県	69.0	51.0	45.0
								国	69.8	51.0	45.6

※県の平均に対し、平均正答率が5ポイント以上の時は「大きく上回る」、5ポイント未満の時は「上回る」と表示しています。

【国語】

強み	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題や主述の不一致を修正する問題。文脈から考える問題がよくできている。また、目的に沿って自分の考えをまとめる力が高い。
弱み 対策	複数の意見を整理したりデータを組み合わせたりして、論理的な記述を要する問題が苦手である。また、全体的に、無回答率が県平均よりもやや高い傾向にあった。グラフなどの非連続型テキストを適切に読み取り文章化する取り組みを行っていく。

【数学】

強み	与えられた条件(式や表)を適切に読み取って処理する問題がよくできている。また、データの活用の分野では適切に情報を読み取ることができている。
弱み 対策	割合の問題を正しく認識する力やデータの活用の問題で専門的な用語をもとにした問題の読み取りが弱い。関数分野では具体的事象と数学をうまく結びつけて考えることが苦手であった。 授業で扱う課題は計算などの反復練習の問題にかたよるのではなく、具体的事象と関連したものや思考を問うタイプの問題に取り組んでいく。また、問題演習時も自分が解いて終わりではなく他者の考え方や解き方にも目を向けて多様な考え方に触れる機会を作っていく。

【理科】

強み	基礎的な知識はよく備わっており、どの分野もまんべんなくできている。2年生において、無回答の割合が県と比べて、ほとんどの問題で少ない。
弱み	問題文から順序立てをして、正確に情報を整理する力が弱かった。また、実験結果やグラフ、会話文の意図を読み取れず、解答につながりづらい。 記述問題を敬遠する傾向にあり20%が無回答であった。また、1年生の無回答の割合が県と比べて、ほとんどの問題で多かった。

対策	日頃から記述・説明問題などに取り組み、記述や文章問題に慣れさせたり、実験では、常に目的や意味を自分で考えさせたりしながら取り組むように指導する。また、実験結果やグラフを活用する問題に取り組んでいく。無回答については、粘り強く解答することの大切さを伝えていく。
----	---

【英語】

強み	聴き取った情報、図で示された情報、長文で読み取ったあらすじ等の情報を活用し、理解することがおおむねできている。
弱み	長文問題をやる際に、内容の大筋をつかむ「ざっくり読み」で終わってしまっている。細かい条件まで読み取ることができていない。また、自分の考えや意見を「正しい英文」で書くことが難しかった。
対策	「ざっくり読み」で終わらずに、もう一度読み直す際に細部まで読み込む習慣をつけさせたり、教科書の本文の内容を読んだのち、それに対する自分の考えを持ち、英語で表現する取り組みを行ったりしていく。

「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙」から

3年生における「生徒質問紙」からみられる本校生徒の傾向については、「生活習慣や学習習慣」に係る項目において、「あてはまる」、「ややあてはまる」といった肯定的回答が高い数値を示しており、全国平均を上回っています。特に、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問については、全国平均より10ポイントほど高く、本校における過去3年間の経年比較においても上昇傾向にあります。

「自分には、よいところがありますか」という「自己有用感」につながる項目については、80%近くが肯定的な回答をしているものの、引き続き全国平均、県平均を下回っています。周りの仲間と自分を比較し、なかなか自分に自信が持てないという状況がみられるのではないのでしょうか。しかし、経年比較においては年々上昇傾向にあり、日頃の取組をはじめ、係活動やボランティア活動などを通して、一人一人が持っている良さに気づいていけるよう取り組んでいきたいと考えています。

経年変化を見ると、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という項目において、今年度肯定的な回答が88%でした。高い値ではあるものの、平成31年には98%であったものが、年々減少傾向しています。これはコロナ禍において日常生活で生徒同士の活動が制限されたことや学校行事をはじめ、地域の活動などが自粛されてきたことが一つの要因と考えられます。しかし、学校で様々な活動や行事に一生懸命取り組んでいる生徒たちに私たちがその目的や意義をきちんと伝え、そのがんばりに対して適切な声掛けを行っていく必要があると考えています。また、学び合う授業を充実し、仲間のためになることを実感したり、地域や青少年赤十字等の活動へ参加し、社会貢献することの喜びを感じたりできる機会を設け、生徒の Well-being につなげることができればと考えています。

